

第2章 授業者の振り返り

本章は、今年度「新しい学びプロジェクト」、「県立高校学力向上基盤形成事業」において開発された教材の授業案と、その教材を用いて実際に授業実践を行った先生方の振り返りコメントで構成されている。

各教科で様々な学年を対象に作成された教材をご覧いただくと、一口に「ジグソー法を用いる」と言っても教材の形は多様であることがわかるだろう。身につけさせたい知識によって、あるいはどのような課題を通してその知識を身につけさせようとするかによって、教材は多様に構想しうる。

「協調学習を引き起こす授業づくり」に取り組んだのは、ほぼすべての先生方が初めてであった。多くの先生方は、それまでの自身の授業、教科についての研究と、この新しい学習方法との間に葛藤を抱えながらも、教材開発、実践を通じて子どもの学びの姿に一定の手ごたえを感じてくれたようである。これらの「生の声」が共有されることを通じて、協調学習を引き起こす授業づくりの取り組みが更に発展していくことが期待される。

1. 新しい学びプロジェクト

実際に授業を行った先生方のコメントを見ると、その内容は多様であるが、「ジグソー法が、子どもに新たな学び、学び合いを提供する可能性があるのではないか」という点は、多くの先生方の共通した意見であった。グループ活動を取り入れた授業がしばしば行われている小・中学校において、ジグソー法にこれまでとは違う「可能性」を感じていただけたことは大変心強い成果である。一方で、個々の教材についてはほぼすべての先生が「改善したい点」を指摘している。授業は一回性のものであるが、教材を様々な教室で試し、改善し続けながら共有していくことが私たちの願いである。これらのコメントを参考に、多くの先生方に自分なりのアレンジを加えた実践を試みていただき、継続的に授業を改善するコミュニティを広げていければ幸いである。



写真： 五ヶ瀬町立三ヶ所中学校（宮崎県）での授業風景

【国語】意見文を書こう 授業案

学校名： 香春町立勾金小学校

授業者： 宮成 努 先生

教材作製者： 宮成 努 先生

授業日時	1月18日(火)	教科名	国語科
学年	6年	生徒数	24人
単元名	「自分の考えを発信しよう」	本時/全時数	2, 3/8

この授業のねらい

- ・自分が発信したいテーマを決め、自分が伝えたいことや考えたことを進んで書こうとすることができる。
- ・目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理することができる。
- ・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えることができる。

授業の中で答えを出してほしい課題

要旨に説得力を持たせるにはどのような材料を用意すればよいのか考えさせていきたい。

各エキスパート活動の課題（分かってほしい内容）

3種類意見文を読み、効果的な材料について考える。

- ・意見文A（反対意見・体験談の入った文）
- ・意見文B（データ・具体例の入った文）
- ・意見文C（体験談・インタビューの入った文）

エキスパート活動 グループ編成

4人×(A・B・C)×2

ジグソー活動 グループ編成

3人×8班

備考（クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など）

全体的に、国語科に対する興味・関心は低く、特に書く活動には抵抗を感じている児童が多い。意見文を書く学習については今回初めて行うため、自分が思ったことだけを列挙するのではなく、要旨に説得力を持たせる材料や取材の仕方などについて丁寧に考えさせていきたい。

学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5分	<p>【導入】</p> <p>1, 意見文に説得力を持たせる材料（内容）とは、どのようなものなのかという課題意識を持たせる。 (めあての確認)</p>	
20分	<p>【展開】</p> <p><u>《エキスパート学習》</u></p> <p>2, 3種類意見文を読み、効果的な材料について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見文A（反対意見・体験談の入った文） ・意見文B（データ・具体例の入った文） ・意見文C（体験談・インタビューの入った文） <p>○それぞれの意見文についての要旨について話しあう。</p> <p>○各意見文にどのような効果的な材料があったかを、交流する。</p>	<p>意見文Aの反対意見についての材料が出ない場合には、簡単な例文（反対意見の入ったもの）を見せ、反対意見の効果を考えさせる。</p> <p>話し合いが停滞しているグループには、意見文の中で特に説得力を感じた部分がどのような内容になっているのか視点を与え話し合わせる。</p> <p>材料のもつよさについてもジグソーで活用できるように準備させる。</p>
20分	<p><u>《ジグソー学習》</u></p> <p>3, ジグソー活動の班に移動し、意見文A～Cの材料について交流し、課題文に説得力を持たせる効果的な材料について話し合う。</p> <p>○それぞれ意見文の要旨と材料について交流する。</p> <p>○課題文に説得力を持たせる効果的な材料について話し合い、発表をする。</p>	<p>エキスパート活動で話し合った意見文の材料について出し合い、その内容を短冊に記入し、黒板に貼っていく。</p> <p>教師が内容ごとに分類していく。</p> <p>資料から読み取った材料だけでなく、自分たちで考えた材料についても発表させる。</p>
40分	<p><u>《クロストーク》</u></p> <p>4, 作成した課題文の材料を交流する。</p>	<p>各班が作成した意見文を発表し、全員で交流していく。</p> <p>発表の際に、取り入れた材料の理由を紹介させる。</p>
5分	<p>【まとめ】</p> <p>本時のまとめをし、自分の意見文について振り返る。</p>	<p>他の班の発表を聞いて、特に効果的な材料と感じたものについて発表させる。</p> <p>自分の意見文に付け加えたい内容や取材の方法などを記入させる。</p>

【国語】意見文を書こう 授業後のコメント

授業日時／教科・単元 1月18～19日 / 国語科
授業者 宮成 努 教材作成者 宮成 努

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

- ・全体的に意欲的に取り組んでいた。子どもたちの感想からも「楽しかった」「またやりたい」という感想が多かった。
- ・グループでの活動（エキスパート活動、ジグソー活動）では活発に意見交流ができていた。
- ・全体交流（クロストーク）では、エキスパート活動やジグソー活動に比べみんなの前で発表することの恥ずかしさもあり、活発な意見交流は出来なかった。
- ・子どもたちに学びのスタイルについて聞くと、「自分の考えが言いやすい」「自分の考えを言ったときにうなずいて聞いてくれたり受け入れてくれたりするとうれしい」などという意見が聞かれた。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

- ・教材文の長さや内容については、子どもたちにとって抵抗なく読めたと思う。
- ・ジグソー活動で話し合わせた「マンガのよさを伝えたい」の「マンガ」という内容が子どもたちにとって身近すぎたため、その前で話し合った材料の活用が少なかった。
- ・ABCの三つの知識が合わさって新たなものを作り出されるというものになっていなかった。

③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

<メリット>

- ・新しい学びのスタイルとして子どもたちを中心に学習を進めていくという点でたいへん参考になる学びのスタイルだと思う。
- ・自分の力でまとめたり、自分の言葉で表現したりと子どもたちの表現力を高める上で非常に効果的だと思う。

<デメリット・心配な点>

- ・エキスパート資料を準備するうえでとても悩み時間もかかった。国語科においてどのような学習場面で活用するのが効果的なのか、どのような資料を用意すればよいのかももう少し実践のサンプル等から検証していく必要があると思った。
- ・1学年や1学級で行うのではなく4年生ぐらいから段階的に学習に取り入れ、子どもたちが学びのスタイルに慣れているいいと思った。
- ・グループで話し合いを進めて行く上で、学級の支持的風土が大切だと思った。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

- ・時間の計画が立てにくい。
- ・クロストークで他のグループの発表を聞きたくなるよう視点でジグソーの話し合いをさせておく必要がある。

※初めて実践をしたので、よく分からない点がたくさんあります。まとめになっているか分かりませんがよろしくをお願いします。

【国語】表現技法を活用しよう 授業案

学校名：南小国町立市原小学校

授業者：廣津 望都 先生

教材作製者：廣津 望都 先生

授業日時	平成23年1月20日	教科名	国語科
学年	5年	生徒数	20名（1名欠席）
単元名	表現を工夫して書こう 「物語を作ろう」	本時／全時数	3／5

この授業のねらい

- 写真から想像を広げ、構成や表現を工夫して物語を書き、交流する。
- ・1枚の写真から連想したことから、物語を作ろうとしている。
 - ・写真をもとに想像を広げ、構成を工夫して物語を作ることができる。
 - ・効果を考えて表現を工夫することができる。
 - ・友達の作品を読んで、表現のよさを見つけたり、よりよくする助言をしたりすることができる。

授業の中で答えを出してほしい課題

表現の工夫をしてより表現豊かな文章を書くにはどうすればよいか。

各エキスパート活動の課題（分かってほしい内容）

- ・比喩による表現の工夫と、その効果。・・・3つの物語夜抜粋
- ・擬人法による表現の工夫と、その効果。・・・3つの物語より抜粋

エキスパート活動 グループ編成

比喩グループ ……3人×2種類（比喩A・B）、4人×1種類（比喩C）
擬人法グループ ……3人×2種類（擬人法A・B）、4人×1種類（擬人法C）

ジグソー活動 グループ編成

3人×4グループ（比喩【A+B+C】・擬人法【A+B+C】各2グループ）
4人×2グループ（比喩・擬人法【A+B+C+C】各1グループ）

備考（クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など）

エキスパート活動では、表現の工夫を見つけ、表現の効果を考える際に、まず個人で取り組む時間を取る。まず、個人で考える際に、学習の定着状況や読書経験によりつまずきが予想される。次に、自分の考えをエキスパート活動の班の友達に話すときに自信が持てないことも予想される。机間指導を行い、つまずきに対応したい。

学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
	<p>1 前時までの学習を想起する。 ・起承転結の「起」の部分を書いた。</p> <p>・これから表現を工夫して物語を書いていく。</p> <p>2 本時学習のめあてをもち、めあてを確認する。</p> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>表現を工夫すると、どんな効果があるのだろう。</p> </div> <p>3 資料を読み、表現の工夫とその効果について話し合う。 【エキスパート活動】</p> <p>4 「比喩」と「擬人法」の表現の効果についてまとめ、表現を工夫して文章を書き換える。 【ジグソー活動】</p> <p>5 各グループでまとめた表現の工夫とその効果を発表し合って、学習のまとめをする。 【クロストーク1】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の時に書いた物語を読み返して感じたことを掲示して、表現の工夫に関わるところを示すことで意欲を高める。 ・表現を工夫すると、どんな効果があるかを考えるという学習の見通しをもたせるために、擬音語・擬態語の効果を考えさせる。 ・工夫されている文と、その工夫を取り除いた文を比較させることで、工夫や効果がとらえやすいようにする。 ・表現の効果が書けない場合は、工夫されていないときには分からなかったことが、工夫された文で分かることを書くよう助言する。 ・話し合った技法を使って表現を工夫して書きかえる活動を行うことで、工夫の効果を実感させ、表現を工夫するよさを味わわせるようにする。 ・同じ文を書きかえることで、表現を工夫することで、印象や感じとられることが変わるおもしろさを味わえるようにする。 ・「比喩」は身近で想像しやすい何かにとたとえており、「擬人法」は人の様子や動作にみたてたり、動かないものを動くように表現しているということをおさえ、各グループの考えのよさを称賛する。
	<p>《次時》</p> <p>5 各グループで書きかえた文を発表し合い、表現の効果を確認する 【クロストーク2】</p>	

【国語】表現技法を活用しよう 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 平成23年1月20日 / 国語科 「物語を作ろう」
授業者 廣津 望都 教材作成者 廣津 望都

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

- ・ 課題が抽象的だったためか、まず、自分の考えをもつことが難しく、話し合いはあまり活性化しなかった。
- ・ 書いている内容は的確だが、自信を持って発表することができず、考えを深めることが難しかった。
- ・ 授業の様子はあまり活発ではなかったが、授業後、実際に物語を書く際に、表現の工夫や効果について振り返ったところ、学習内容をよく把握していた。書いた物語を友達と読み合う活動では、友達が書いた文章の表現の工夫や効果についてよさを見つけたり、その効果について伝えたりする姿が見られた。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

- 工夫された文と工夫を除いた文を比較し、「どんな工夫があるのか」、「どんな効果があるのか」について考えることは意義があると感じた。
- 子どもたちの学び合いを生み出すためには、資料の難易度、説明の仕方、意欲を高める課題や活動の設定、目的意識の持たせ方などを改善する必要がある。

③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

- 子どもの学びの力や学び合いの可能性を広げること、また、今後活用できる知識を得るという点でメリットがある。
- 子どもの思考の活性化は資料や活動の進め方でかなり左右される。資料作りがとても難しく大変である。(しかし、子どもの学び合いを生み出すために必要な労力であると感じている。)

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

- ・ 国語科においては、「読む」領域で読みを深めるときと、「書く」領域で表現技法や構成をつかむ際に「ジグソー型」の学習はとてもおもしろい。ただし、活動の設定の仕方を変える必要があるようである。
- ・ 理科や社会科で、純粹に「知識」ととらえられるもので資料をつくって実践してみたい。

【国語】 ごんぎつね**授業案**学校名： 三ヶ所小学校授業者： 津奈木 考嗣 先生教材作製者： 津奈木 考嗣 先生

授業日時	平成23年1月27日(木)	教科名	国語
学年	第4学年	生徒数	22名
单元名	ごんぎつね	本時/全時数	8/8

この授業のねらい

- ・ 「ごん」と「兵十」の心情を、叙述をもとに読み取りながら二人の関係をとらえる。
- ・ とらえた登場人物の関係をもとに、物語の続きを考える。

授業の中で答えを出してほしい課題

- ・ 「ごん」と「兵十」は、本当に心から分かり合えることができたのかを検証する。

各エキスパート活動の課題（分かってほしい内容）

- A 「ごん」の行動描写や会話文から「兵十」に近づこうとする心情を読み取る
- B 「兵十」の行動描写や会話文から「ごん」に対する気持ちの変化を読み取る

エキスパート活動 グループ編成

- A 「ごん」視点コース 3人、4人、4人の3グループ（会話・行動・表現技法）
- B 「兵十」視点コース 3人、4人、4人の3グループ（会話・行動・表現技法）

ジグソー活動 グループ編成

4人×4グループ 3人×2グループの計6グループ

備考（クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など）

国語（特に物語の読解）は積極的に行える学級である。しかし、音読が苦手な字面を読むだけの音読をする児童が多い。最終的には音読が上手になるために、今回の学習があることを理解させたい。

また、以前算数でジグソーを行った際に、課題の把握に時間を要する（特別な支援を要する）児童がいて、結局課題把握ができず思考がシャットダウンしてしまった。今回は支援員の先生にも授業協力をしてもらい、児童の不安感を和らげるよう努めたい。

今回は、エキスパート活動を1日目（第1場面～第2場面）、2日目（第3場面～第4場面）、3日目（第5場面～第6場面）の計3時間を設定する。また、ジグソー活動に1時間、

クロストークに1時間の時間設定を行う。つまり、単元の学習を大きな協調学習として設定し学習を展開する。

学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
1時間	I 新出漢字の学習及び通読して初発の感想を書く。	児童の思いや疑問点なども、学習を進めながら解決していくことを伝える。
1時間	II 初発の感想をもとに、学習の見通しについて話し合い、エキスパート学習の進め方についても理解する。	本格的な協調学習は初めてで、しかも長時間におよぶエキスパート活動なので、学習の進め方を十分に理解させたい。
3時間 1時間	<p>【エキスパート活動】</p> <p>III 視点毎に別れて、登場人物の気持ちの変化を読み取り、心情曲線にまとめる。</p> <p>① 第1場面～第2場面の読み取り</p> <p>② 第3場面～第4場面の読み取り</p> <p>③ 第5場面～第6場面の読み取り</p> <p>・ 学習内容の整理</p>	<p>エキスパートは大きく2つの立場（ごん班、兵十班）に分ける。しかし、叙述に即して細部に気を付けながら読ませるために、各班を（会話、行動、表現技法）の3つの視点に分け、毎時間担当する視点を交代させて読ませる。</p> <p>ワークシートに、考えさせたい表現を抜き出しておいて、話し合いを焦点化させる。（書くことに困り感のある児童を支援するため、支援員の先生に協力をしてもらう。）</p>
1時間	<p>【ジグソー学習】</p> <p>IV それぞれの視点で読み取った内容を伝え合い、ごんと兵十の気持ちの変化を心情曲線にまとめる。</p>	それぞれ違う立場で読み進め、ここで初めて相手の立場を考えるので、心情曲線にまとめながら互いの気持ちの変化を理解させたい。
1時間 (本時)	<p>【クロストーク】</p> <p>V 心情曲線から分かるごんと兵十の心の変化をもとに、物語の続きを考える。</p>	<p>全ての班が、全く同じように気持ちを分析した訳ではないことを理解させるために、心情曲線を比較させる。</p> <p>違いが生じるのは、当然のことであり、なぜ自分たちは、そのような結論をだしたのか、理由を明確させることが大切である助言を与える。</p> <p>今回は、数回通読を行っているので、教科書の内容（物語の結末）を児童は知っている。そこで、教科書の流れとは少し異なるシチュエーションを設定し、続きを考えさせることで、これまで読み取った登場人物の関係を活かした作文ができるようにする。</p> <p>登場人物の関係の読み取り方が異なれば、作品全体の捉え方も異なってくることを理解する。自由な読みの中で、他者との捉え方の違いも、文学作品の読み方の面白さであることに気づかせたい。</p>
15分	① それぞれの班の心情曲線を比較する。	
5分	② 心情曲線の違いについて話し合い、自分の班の考えの根拠を明確にする。	
20分	③ これまでの読み取りを活かしながら、設定されたシチュエーションの続き（ごんぎつねのエンディング）を考える。	
5分	④ 作品を紹介し合いながら、互いのよさを認め合う。	

【国語】 こんぎつね 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 1月20日～27日/ こんぎつね
授業者 津奈木 考嗣 教材作成者 津奈木 考嗣

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

一斉に指導するより、学びの方向性さえ決まれば、仲間同士の話し合いで、読みの世界が、いくらでも深まっていくような感じがした。

今回は、各場面の読み取りの3時間がエキスパート活動だったので、一人一人の緊張感が長時間に及び、子どもたちもきつかったと思われる。しかし、単発のエキスパート活動と違い、同じような形態での学習が3時間も設定されているので、学び方が徐々に腑に落ちていったのか、子どもたちが回を重ねる度にスムーズに学習を進められるようになった。ただし、書く活動に時間を要する児童もいて、毎時間の内容をこなすのに苦勞する児童もいた。

ジグソーでは、3時間分の読み取った内容を伝えるのに戸惑っていたが、視点を与えることで意見が活発に出るようになった。

最後の物語の続きを考える活動では、これまでの読みを活かした物語の展開を考えることができた班が多く、仲間と楽しみながら話し合いを広げていった。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

やはり、今回は「ごん」と「兵十」の両視点に分けて、とことん片側に偏った読みを進めたことで、最終的な意見のすりあわせが活性化したと思う。この教材は、主な登場人物が二人というシンプルな形なので、中学年の児童が協調学習で学ぶには、ちょうどよい教材だと感じた。

また、学びを整理し視覚的に理解させる上で心情曲線を利用したことで、それぞれの児童が考えを理由付けて説明したり、他者と比較したりしやすかった。

今回、それぞれのエキスパート活動の中に、会話・行動・表現技法と3つの小さな視点を設定したが、児童の実態や発達段階を考えると会話と行動の2つの視点で十分であったと思う。

また、ワークシートについても、考えさせたい表現をより吟味することで、児童の思考はより深まると思う。単元全体を大きな協調学習と捉えたことで、ゆとりをもって学習が進められたので、文学教材には適した学習形態だったと思う。

③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

やはり、インプットとアウトプットがはっきりと設定されている協調学習は、児童の国語力を総合的に高めていけると感じた。今回、特にエキスパート活動はグループ活動が中心で、担任の目を離れた部分での話し合い活動も多かった。にも関わらず、一人一人がしっかりと目的意識をもって話し合いを進められるという点で、活動の止まらない学びの時間を保障できる。

考えをまとめたり、書いたり、伝えたりという国語の基礎的・基本的な力が試されるが、個人差も大きく、学び合う相手によって、学びの達成感が左右されるようなイメージもある。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

今回のような視点を分けた文学教材の学習を、G授業を行う他の学校と協力して進めてみるのも面白いと思う。ただし、それぞれの担任がねらいを共有して、同じ価値観でエキスパート活動を進めるには、まだまだ研修が必要であると思う。

ちなみに、次のG授業では、4年理科の「空気を温めたり、冷やしたりしたときの変化」について、ある現象の理由を、3つの実験によるエキスパート活動の融合によって説明させる学習に挑戦してみようと思う。

ジグソーで読書の世界を広げよう（第5学年）

南小国町立市原小学校 廣津 望都
平成22年7月実施

1 単元名 読書の世界を広げよう（「千年の釘にいどむ」「読書会をしよう」）

2 単元設定の趣旨

本単元は「千年の釘にいどむ」という説明文を読み、それをきっかけに新たな本を読み、読書会を開くというものである。

「千年の釘にいどむ」は、その題材におもしろさという点でも、短く、たたみかけるような文章が生み出す緊迫感においても、また、文章構成の明快さという点でも、児童の興味を引く作品である。児童がこれまで学習したり、ふだん読んだりしている児童読み物とひと味もふた味も違うこのような文章をきっかけにして、ここでは、彼らの視野を広げ、新たな読書生活への入り口にしたい。

また、本単元では、読書会を設定して「同じ本を読む」「同じ作者の別の作品を読む」「同じテーマの別の本を読む」など学級の実態に応じて会の持ち方を工夫したい。単なる紹介のし合いではなく、友達の見え方や考え方に触れ、自分の考えが広まったり深まったりするよう支援したい。

3 この単元で身につけたい力（「読書会をしよう」にかかわるもの）

目標	テーマを決めて本を読み、内容・感想を交流する読書会を楽しんで、読書の世界を広げ深める。
話す・聞く力	読書会で、自分が読んだ本の魅力や自分の感じ方・考え方を、メモを利用しながら紹介する。
読む力	読書会の目的に合わせて、効果的な読み方を工夫し、自分の感想をもつ。

これを選択

● 同じテーマで書かれた別の本を一さつずつ読んで、それぞれの人からとらえた内容をしようかいたり感想を話したりする。（このやり方の長所）

● 同じテーマについていろいろな見方について、考えを深めることができる。（このやり方の長所）

② 読書会をしよう。

何人かでグループになって、読書会をしよう。

読書会には、いくつかのやり方があります。

- 同じ本を読んで、おたがいがとらえた内容や感想を話し合う。（このやり方の長所）
- 同じ作者の別の作品を読んで、それぞれが、同じ作者の別の作品を読んで、とらえた内容をしようかいたり感想を話したりする。（このやり方の長所）

の感じ方・考え方を発見できたりする。（このやり方の長所）

物語は、わたしたちを現実には体験できない世界へと連れていってくれます。また、現実を見るとき、新しい見方に気づかせてくれることもあります。

4 「読書会」について

(1) 読書会の目的・・・同一作者の重ね読み

今回の読書会は、同一作者の重ね読みを行うことにした。子どもたちに提示した読書会の目的は、次の通りである。

「宮沢賢治」の作品を読み、いくつかの作品に共通する書き方の特色や、作者のものの見方や考え方にせまろう。

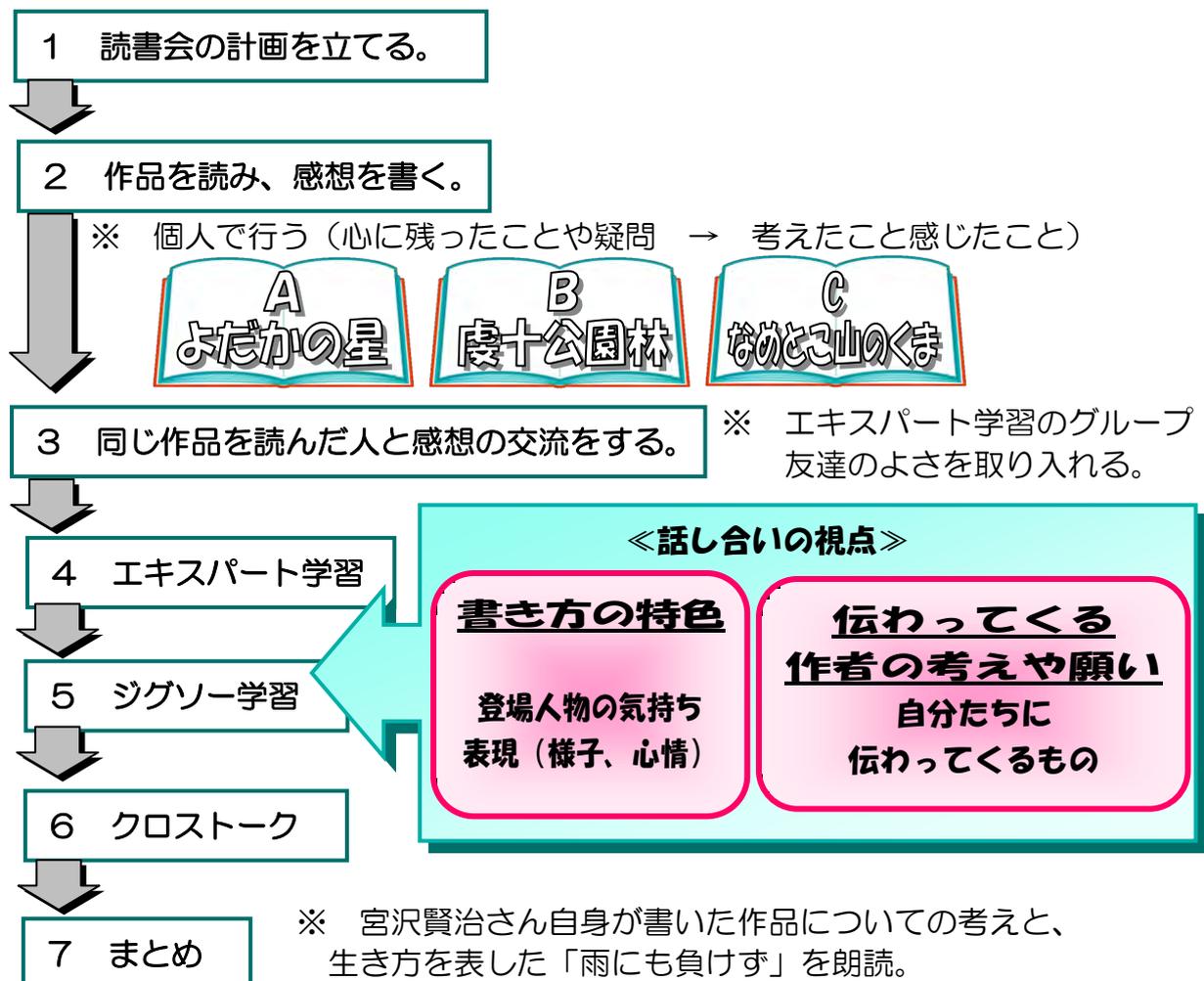
(2) 取り上げる作品

今回の読書会で、宮沢賢治の3つの作品を取り上げることにした。作品を選ぶ際には、

- 文量が適切であること
- 内容が5年生に適していること
- 宮沢賢治作品の特徴（4つの視点）が子どもにもとらえやすいこと、

以上3点の条件を踏まえ、「よだかの星」、「虔十公園林」、「なめとこ山のくま」の3つを選んだ。

(3) 読書会の流れ



5 学習のようす

(1) シグソー学習のようす

「書き方の特色」と「伝わってくる作者の考えや願い」という視点でシグソー学習を行った。以下は、各グループの学習のようすである。

グループ1	主人公がなくなるという共通点を見つけ驚く。
グループ2	・ 作者に同じような体験があったのではないかと、生い立ちに目を向ける。 ・ 3つの作品とも動物とのかかわりや「死」が描かれていることを確認していく。
グループ3	3人とも国語科の学習に関して支援が必要な児童である。日ごろも、自分の考えを整理して話すということはなかなかできない。意欲面も支援が必要。それぞれに次のような学習のようすが見られた。 (A児) ノートを交換して読み合い、何とか学習を進めていこうとする。学習をリードする。他の学習では見られない。共通点を見つけたとき喜びを感じている。 (B児) 言葉にこだわって書こうとする。「願い」というキーワードを使う。自分なりに文をまとめていこうとする。 (C児) エキスパート学習で学んだことを伝えようとする。 言葉にこだわってまとめようとしていく。支援によって、視点を確認して書いていく。
グループ4	日頃控え目な児童がよく発言する。
グループ5	スムーズに話し合いが進んでいる。うまくまとめている。
グループ6	(D児) 国語科に苦手意識を持っている。友達の考えを聞きとって、一生懸命ノートに書いている。 (E・F児) お互いの認識のしかたを納得いくまで確認している。 D児がE・F児の考えを復唱しようとするができません、もう一度聞き直していく。意味がわかって書き始める。この作業を通して考えが整理されていく。

全体を通して・・・

- ◎ 3人で納得いくまで言葉を確認しながら、まとめていくようすが見られた。
- ◎ 話し合いが深まり、宮沢賢治作品の本質に迫るような発言も多く聞かれた。
- ◎ 一人学び・エキスパート学習よりも学習がスムーズに進んでおり、意欲も格段に高かった。
- ◎ シグソー学習を通して、エキスパートで読みとった作品の読み取りがさらに深まっている子どももいた。
- ◎ 個別支援を要する子どもも、自分の考えを積極的に話していた。また、学習のめあてにそって確実に話し合いを進めることができていた。

(2) シグソー学習の感想

いろいろな考えが出てきたのでまとめやすかったし楽しかったです。

学習して、3人で話し合ったらいろいろな知恵が出てきて、自分でも気づかなかったことが出て、おもしろいようなことも出てきたからとても楽しかったです。

1人で学習をするよりか、3人や4人でする方が速く進んで、シグソー学習でまとめて楽しかったです。

初めのエキスパート学習で3人で考えてみて私はちょっと違う考えだったけど、他の人とまったくちがう、正反対の考えとかが出たから、それも楽しいなと思ったし、頭がよく働きました。

最初は「なめとこ山のくま」を4人で学んで、「なめとこ山のくま」だけのをまとめたときよりも、シグソー学習でをしてみると3つの物語が合わさった書き方の特色や伝わってくる作者の願いが深まったので楽しかったし勉強になったと思いました。

シグソー学習で3つの共通点をさがしていたら、植物や生き物を大切にしてほしいという作者の願いが出てきたけど、ほくも愛情をそそがれていないワンちゃんをニュースで見たことがあるから、宮沢賢治さんの考えとおんなじだなと思いました。

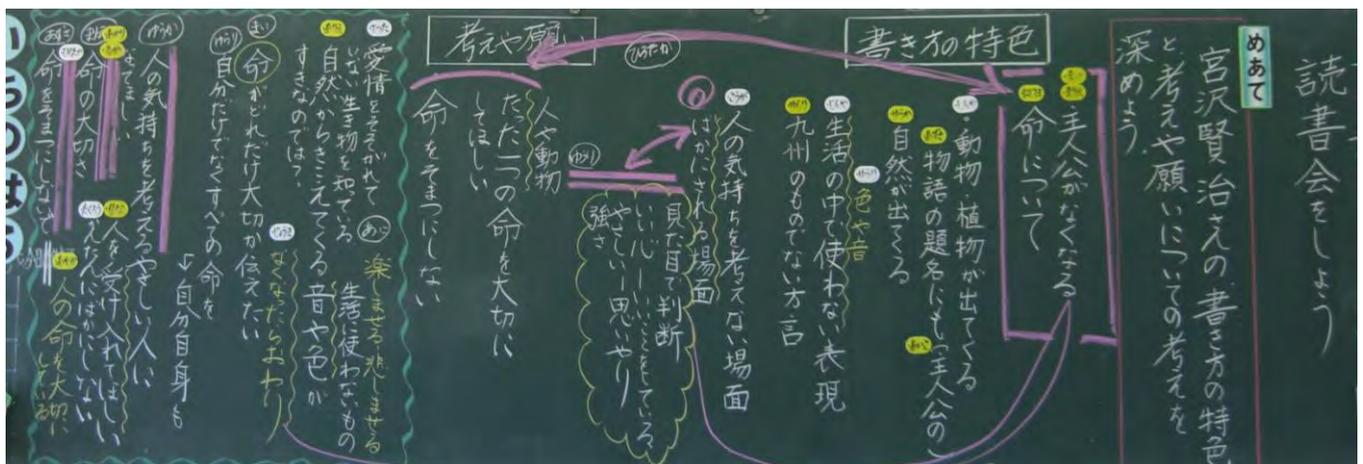
最初1人で考えたときは、あまり考えがまとまらなくて、考えが違ったりしたんだけど、3人だと、たくさん考えが出てきて、1人でするよりも深まるし、とても進んだので楽しかったです。

シグソー学習をして初発の感想をもう一度見たときに、シグソー学習をしたら考えが深まっていたので、もう一度同じ作品を読んでみたいなと思いました。

◎ 学ぶ楽しさを感じている様子がうかがえる。また、効率的な学習の進め方であることも感じているようである。

(3) クロストークのようす

下の写真は、クロストークの際の板書である。右側は、それぞれの考えを書いたもので、左側は「友達の考えを聞いてさらに考えたこと」を書いたものである。宮沢賢治の作品観に迫る言葉が多く出されている。



6 授業を通して考えたこと

- 個人で考える時間を確保することで話し合いの必要感や達成感が強まる。
- 受け入れながら聞く姿勢が大切。「それは違うかも」より、「それもあつね」から広がる。
- 仮に一つの作品について全体で話し合ったとしても、「宮沢賢治」作品について今回のように迫れなかったであろう。また、3つの作品を全員で重ね読みしたとしたら、どれだけの時間がかかったであろうか。いきついてほしい認識が明らかになっているとき、シグソー法は効果的であると考えます。

【数学】なぜ変化の割合は $a(p+q)$ で求められる？ 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 9月29日 / 数学・ $y=ax^2$
授業者 杉田和代 教材作成者 杉田和代

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

- ・途中で、問いを答える生徒がいて、あまり意欲的ではなかった。
($a(p+q)$ の公式が導き出せた)

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

改善点

- ・なぜ、 $a(p+q)$ が導き出せるのか？という問いにしたほうがよかったのではないかと思う。

③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

- ・鞍岡で行うには、やはり人数に問題がある。(3年生は5名なので…)

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

【数学】X人で握手をすると？－2次方程式の応用－ 授業案

学校名： 宮崎市立住吉中学校 授業者： 甲斐 一陽 先生

教材作製者： 甲斐 一陽 先生

授業日時	平成22年10月1日	教科名	数学科
学年	第3学年	児童数	応用コース20名 (学級34名)
单元名	二次方程式の利用	本時/ 全時数	8/8

この授業のねらい

方程式の学習において、文章から数量関係を読み取り、立式する力を育てる。

授業の中で答えを出してほしい課題

全員が全員と握手をするとき、人数と握手の回数にはどのような関係があるか。

各エキスパート活動の課題（分かってほしい内容）

- ① 握手の回数を対戦表で表し、回数を数える。
- ② 握手の回数を多角形の辺の数と多角線の数（人数分の点をうち、直線で結んだ図形）で表し、回数を数える。
- ③ 握手の回数を組み合わせ（A-B、A-C、A-D）のように表し、回数を数える。

エキスパート活動 グループ編成

3人の5班
4人の1班

ジグソー活動 グループ編成

3人の5班
4人の1班

備考（クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など）

- 学級の仲は良く、グループ活動には積極的に取り組む。
- 考えた内容をお互いに説明したり、全体に発表したりする経験が少ないため、意見の深まりが少ない。

学習活動のデザイン

時間	学 習 活 動	支 援 等
5分	1. 学習内容をつかむ 「握手の回数を求めてみよう」	
5分	2. 問題解決を見通す。 実際に数人で握手を試みる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「全員が全員と握手をする」ことを十分に理解させる。
15分	<p><エキスパート活動></p> 3. 人数と握手の回数について解法を3つに絞り、グループごとに取り組む。 (2, 3, 4, 5, 8, 10人のとき)	<ul style="list-style-type: none"> ・3人のうち、1人しか取り組まない資料があることを伝える。 ・エキスパート資料を3つ提示し、取り組む資料を生徒に選択させる。 ・理解の早い生徒については「x人のときの握手の回数は、どのように表されるだろうか」という課題について考えさせる。 ・ジグソー班で説明できるように、考えをまとめさせる。 <p>◎「x人のときの握手の回数」については説明がややあいまいなまま、ジグソー活動に移ったほうが、話し合いが深まりやすい。</p>
5分	<p><ジグソー活動></p> 4. 意見を交換する。 「メンバー全員の式を比べてみよう。どんなことに気がつくだろうか。」	<ul style="list-style-type: none"> ・一人の握手の回数に注目させることで、立式の説明を促す。 ・他のエキスパートの説明を聞きながら、関係式を求め方考え方について深める。 ・他のエキスパートの考え方についても取り組む。
15分	5. 課題に取り組む 「 x 人のときの握手の回数を式で表してみよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に発表させる。 ・生徒にまとめさせる。
5分	6. まとめ	

【数学】X人で握手をすると？－2次方程式の応用－ 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 平成22年10月1日 / 数学科 二次方程式の利用

授業者 甲斐 一陽 教材作成者 甲斐 一陽

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

- グループ学習に積極的に取り組んだ。
- エキスパート、ジグソーへのグループの活動もスムーズであった。
- 誰かひとりに頼らず、自分で考える場面が多く、一人一人が活動していた。
- ジグソーでは、自分以外のエキスパートの方法で考えてみる生徒がおり、自然と意見の交換ができていた。
- 他のエキスパートへの関心が高い生徒もおり、さまざまな方法で考えようとしていた。
- お互いや全体に説明しあう場面での深まりが足りないようであった。
- 教師の助言のタイミングが悪く、エキスパートでの深まりが足りないようであった。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

- エキスパートで3つの資料を全体に提示したことで、ジグソー班全員に授業の見通しがたった。
- エキスパートの3つの資料から生徒に解法を選択させたことで、より積極的に、責任をもって取り組めた。
- 実物投影機、TVが利用しやすく、生徒のワークシートをそのまま活用できた。
- 1授業時間での活動も、十分できると感じた。
- グループの人数が多すぎた。(6人) 3人ぐらいが望ましい。
- グループ数が3つであり、多様な意見が引き出せなかった。
- エキスパートの時間を多く設け、考え方や意見を固めすぎたので、ジグソーでの意見交換が活発に行えなかった。エキスパートはややあいまいさを残しながらジグソーに取り組むほうが、協力して問題を解決しようという意欲が高いように感じた。
- 教師の適切な助言が行えず、エキスパートでの説明が不十分なままであった。
- 今回の授業は「二次方程式の利用」がテーマであったが、“文章を読んで、立式する”部分に重点をおいたため、方程式の解き方については別の時間で確認する必要がある。

③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

- グループ活動に積極的な生徒が多く、意見交換も活発に行える。お互いに説明する力や全体へ発表する力を育てていくことができそうだ。
- お互いの意見を尊重することができる雰囲気作り。質問や相談を自然とできるようになる。
- 一人一人取り組む内容が異なるので、全体的に責任をもって活動することができる。
- 授業後、本時の内容をさらに詳しく知りたいという生徒がおり、授業への関心の高まりと定着が期待できる。
- 本時の評価。
- 内容の理解や話し合い活動が苦手な生徒への対応。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

<単元>

数学科、3年、図形の相似の導入

- ・直角三角形のピースを使って、パズル的な作業を行う。(エキスパート)
- ・2枚、3枚・・・と枚数を限定し、作成可能な図形を探す。(エキスパート)
- ・作成した図形に対して、「形を変えずに大きさだけ変える」という作業を行う。(ジグソー)
- ・その中で、相似な図形についての特徴をつかむ。(ジグソー)
- ・練習問題に取り組む。(ジグソー)

【数学】なぜ変化の割合は $a(b+c)$ で求められる？ 授業案

学校名： 安芸太田町立加計中学校 授業者： 栗津 政夫 先生

教材作製者： 栗津 政夫 先生

授業日時	平成22年10月12日(火) 3時間目	教科名	数学
学年	3年生	児童数	26人
単元名	2乗に比例する関数	本時/ 全時数	20/20

この授業のねらい

2乗に比例する関数の変化の割合の公式をエキスパート資料「式の値」、「因数分解」、「除法」を利用して、理論的に説明する。

授業の中で答えを出してほしい課題

2乗に比例する関数の変化の割合を求める公式がなぜそうなるのか導き出す。

各エキスパート活動の課題（分かってほしい内容）

式の値・・・数を代入しても、文字を代入しても考え方は同様である。
 因数分解・・・因数分解の仕方
 除法・・・(多項式) ÷ (単項式) は因数分解を利用して、計算することができる。

エキスパート活動 グループ編成

3人×9グループ
 なお、生徒の人数の関係上、教員が1名参加する。

ジグソー活動 グループ編成

3人×9グループ
 なお、生徒の人数の関係上、教員が1名参加する。

備考（クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など）

エキスパート活動、ジグソー活動では学力差を考慮して組んでいる。

学習活動のデザイン

時間	学 習 活 動	支 援 等
5	導入 今日の学習内容の確認を行う エキスパート活動 A：式の値について B：因数分解について C：文字式の除法について	◇資料で重要な部分と思われるところはライン等をひかせる。 ◇それぞれの資料で何が重要であるかを考えさせる。
20	ジグソー活動について 2乗に比例する関数 $y=ax^2$ においてxの値がbからcまで増加するときの変化の割合は $a(b+c)$ として求めることができる。なぜそうなるのかを説明しなさい。	◇3つの資料を利用して、公式を導き出すようにさせる。 ◇筋道を立てて、班の考えを整理させる。
35	発表（1つの班） その後、不備な内容について補足をさせる。	◇板書したものに筋道を立てて説明させる。 ◇他の班については、説明の不備等意見があれば説明をさせる。
45	今日の振り返り	

【数学】なぜ変化の割合は $a(b+c)$ で求められる？ 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 平成22年10月12日(火) / 数学・関数
授業者 栗津政夫 教材作成者 栗津政夫

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

・初めて行い、進め方について詳しく説明していなかったため、エキスパート資料のとき、何気なく読んでいたが、あとで自分の資料を他の2人に説明しなければならないことを知ると、3人で重要な部分に印を入れたり、何を伝えるべきか確認しあっていた。

生徒は初めての授業をそれなりに楽しくやっていたように思う。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

・時間配分（エキスパート資料）の時間をどれくらいとるべきなのかをもう少し考える必要があった。

③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

・メリットについては、自分でその資料に責任を持たなければいけないので、ただ聞いておけばよいという状況にはならず、積極的の姿勢が必要になってくること。

また、必要な情報を読み取り、それを相手に正しく説明しなければならないので、言語能力を高めていく機会にもなる。

・デメリットは、自分一人で考えたい生徒が少し物足りないところがあるのではないかな。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

【理科】デンプンの消化と吸収のしくみを説明しよう 授業案

理科学習指導案①（2時間版）

指導者 亀岡 圭太

- 1 日時 10月4日（月） 5・6校時（13:35～15:25）
- 2 学年 第学年 2学年（名）（1班3人、エキスパートグループ3人）
- 3 場所 理科室
- 4 単元名 動物のくらしとなかま
- 5 本時の展開

（1）本時の目標

協調学習のジグソー法による活動を通して、消化・吸収の仕組みについて理解する。

（2）観点別評価規準

○栄養分を消化吸収するしくみについて関心をもち、活動に積極的に参加しようとする。（興味・関心）

◎栄養分を消化吸収するしくみについて説明することができる。（知識・理解）

時間配分	学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
5 10	導入 1 食べ物に関するアンケート集計結果を知る。 2 食物に含まれる栄養素について知る。 3 本時の目標を確認する。			
デンプンの消化と吸収のしくみを説明しよう				
15 20	展開1 4 食べてから体内に取り入れられるまでの流れを予想し、発表する。 5 エキスパートグループに別れ、それぞれのグループで資料1, 2, 3を読み、理解する。	・黒板に書いて残しておく。 ・資料にアンダーラインを引きながら読むよう指示する。 ・班の人にわかりやすく説明できるようにまとめておくことを指示する。 ・資料を理解できるようしっかり時間を確保する。		

20 10	展開 2	<p>6 班に戻り, エキスパートグループで学んだことを発表し, 課題に対する答えを考え, 発表の準備をする。</p> <p>7 発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが持ち帰った資料を読むなどして, 必ず話し合いに参加するよう支持する。 ・他の班が分かりやすいよう, ホワイトボードを使うなどして発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・班で協力して発表するよう促す。 ・質問することで, 理解できているかを確認する。 ・簡単な評価をする。 	<p>栄養分を消化吸収するしくみについて関心を持ち, 活動に積極的に参加しようとする。</p>	授業観察
35 10 5	まとめ	<p>8 最初の考えとの違いや深まりを知る。</p> <p>9 今日の授業のまとめと感想を書く。</p> <p>10 今後の単元の学習内容を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消化酵素についての学習 ・小腸についての学習 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動前の予想と対比しながら, 消化・吸収のしくみについてまとめる。 	<p>栄養分を消化吸収するしくみについて説明することができる。</p>	ワークシート

理科学習指導案②（1時間版）

指導者 亀岡 圭太

- 1 日 時 月日 () 校時 (: ~ :)
- 2 学 年 第学年 2学年 (名) (1班3人、エキスパートグループ〇人)
- 3 場 所 理科室
- 4 単元名 動物のくらしとなかま
- 5 本時の展開

(1) 本時の目標

協調学習のジグソー法による活動を通して、消化・吸収の仕組みについて理解する。

(2) 観点別評価規準

○栄養分を消化吸収するしくみについて関心をもち、活動に積極的に参加しようとする。(興味・関心)

◎栄養分を消化吸収するしくみについて説明することができる。(知識・理解)

時間配分	学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
	事前	食べたものは、どのようにして体内に取り入れられるかについて知っていることを書く。	食べたものは、どのようにして体内に取り入れられるか事前に聞き、どのような回答があったかまとめておく。	
5	導入	1 事前にきいた質問のクラスの考えをについて知る。 2 本時の目標を確認する。		
デンプンの消化と吸収のしくみを説明しよう				
10		3 エキスパートグループに別れ、それぞれのグループで資料1、2、3を読み、理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料にアンダーラインを引きながら読むよう指示する。 ・班の人にわかりやすく説明できるようにまとめておくことを指示する。 	
20		4 班に戻り、エキスパートグループで学んだことを発表し、課題に対する答えを考え、発表の準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが持ち帰った資料を読むなどして、必ず話し合いに参加するよう支持する。 ・他の班が分かりやすいよう、ホワイトボードを使うなどして発表する。 	栄養分が吸収されるしくみや、そのゆくえに関心をもち、積極的に活動しようとする。 ワークシート 授業観察
10	展開	5 発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・班で協力して発表するよう促す。 ・質問することで、理解できているかを確認する。 ・できるだけ多くの班に発表させる。 ・簡単な評価をする。 	

5	まとめ	6 消化・吸収についての説明を聞く 7 今後の単元の学習内容を聞く。 ・消化酵素についての学習 ・小腸についての学習 など	・授業前の生徒の考えとの違いを明らかにするように説明する。		
	宿題	学んだことと感想を書く		消化された栄養分がどのような経路で吸収されるのか説明できる。	ワークシート

【理科】 デンプンの消化と吸収のしくみを説明しよう 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 理科 / 動物のくらしとなかま
授業者 亀岡圭太 教材作成者 亀岡圭太

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

- ・初めての形式の授業だったので、戸惑っているように感じた。
- ・普段いない人がいたり、ビデオ撮影があったりしたので緊張していた。
- ・与えられた課題にどうにか取り組もうという姿が見られた。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

- ・デンプンの変化の資料で図を改善する必要がある。（人の体をいれたものにする）
- ・時間配分がうまくいかなかった。（後の反省でエキスパートに時間をかける必要というアドバイスをいただいた。）
- ・生徒の活動に入りすぎたと感じた。生徒にもっと考えさせるよう、我慢が必要だったと思う。
- ・1時間で授業をやるようにしたい。

③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

- 思考しながら、知識が身に付くところが面白いと思った。
- クラスへの所属意識が高まると感じた。
- 思考・判断、知識・理解などの教科に関する能力だけでなく、コミュニケーション能力や読解力など、教科横断的な能力の育成にもつながる。

●すべての単元のすべての内容で行えるものではないので、題材を見つけることが必要で教科書や教材について、教師側の理解が必要である。

●急な欠席者が出た時や人数がうまく合わない時の手立ての工夫が必要だと感じた。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

- ・電磁調理器のしくみ（交流、磁界の発生、電磁誘導の3つのエキスパート資料）

【理科】電磁調理器の上の豆電球に流れた電流はどうやって発生した？ 授業案

学校名： 安芸太田町立筒賀中学校

授業者： 亀岡 圭太 先生

教材作製者： 亀岡 圭太 先生

授業日時	平成22年11月4日(木)	教科名	理科
学年	中学2年生	生徒数	9人
单元名	電流とその利用	本時/全時数	29/29

この授業のねらい

ジグソー法を用いた協調学習の活動を通して、電磁調理器のしくみを説明することができるようにする。

授業の中で答えを出してほしい課題

電磁調理器の上においた豆電球に流れた電流はどのようにして発生したか説明しよう

各エキスパート活動の課題（分かってほしい内容）

- ・電流による磁界の発生
- ・電磁誘導
- ・交流電流

エキスパート活動 グループ編成

3人×3

ジグソー活動 グループ編成

3人×3

備考（クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など）

課題が難しいので、教師の支援が必要と予測される。
 エキスパートの資料は既習内容なので、あまり時間をかけなくてもよいと考えられる。
 ジグソー活動の時間が長く取ることが必要と予測される。

学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5	1 電磁調理器の上においた豆電球が光る様子を見る。	<ul style="list-style-type: none"> ・電磁調理器から豆電球に電流が流れたのではないことを説明する。 「電磁調理器から直接、豆電球に電球は流れてない」
5	2 本時の目標を確認する。 「電磁調理器の上においた豆電球に流れた電流はどのようにして発生したか説明しよう」	
10	3 電磁調理器の中身の説明を聞き、予想する。	<ul style="list-style-type: none"> ・電磁調理器の中身（コイル）を説明する。 ・豆電球の部分にもコイルがあることを説明する。 ・予想はワークシートに書かせず、発表させる。 ・予測が付かない生徒が多いと考えられるので、あまり時間をとらない。
15	4 エキスパートグループに別れ、それぞれのグループで資料1, 2, 3を読み、理解する。（活動1）	
5	5 班に戻り、エキスパートグループで学んだことを発表し、課題に対する答えを考える。（活動2）	<ul style="list-style-type: none"> ・状況によっては、資料を読む時間、グループ内で発表する時間を設定して進める。 ・資料にアンダーラインを引きながら読むよう指示する。 ・班の人にわかりやすく説明できるようにまとめておくことを指示する。 ・資料を理解できるようしっかり時間を確保する。
5	6 発表する。	
5	7 まとめた内容の確認をする。 「電磁調理器の中のコイルに交流が流れて向きが変わる磁界が発生することで、連続して電磁誘導が起こり、電磁調理器の上に置いたコイルに絶えず誘導電流が流れて電気が点灯し続ける」	<ul style="list-style-type: none"> ・状況によって、持ち帰った資料を発表する時間、3つの資料について個人で考える時間、グループで話し合う時間を設定して進める。 ・それぞれが持ち帰った資料を読むなどして必ず話し合いに参加するよう支持する。 ・ホワイトボードを使って発表する。 ・評価を行う。 ・電磁調理器では、「なべ自体が温かくなっていること」「土鍋などは温まらないこと」などを説明する。
5	8 各自でまとめと感想を書く	

【理科】電磁調理器の上の豆電球に流れた電流はどうやって発生した？ 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 _____ 理科 _____ / _____ 電流とその利用

授業者 _____ 亀岡圭太 _____ 教材作成者 _____ 亀岡圭太 _____

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

- ・課題に興味を持ち、意欲的に活動に参加していた。
- ・1回目のジグソー型の授業よりも、スムーズに活動することができていた。
- ・授業後に、電磁調理器の周りに集まって来た様子からも、教材に興味を持ったことがうかがえた。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

- ・身近な道具を用いて、生徒の関心が高まるようにした。
- ・発問を「なぜ発生したか」ではなく、「どのようにして発生したか」にした。（「どのようにして」と問うことで順序だてて答えを説明するのではないかと感じたため。）
- ・生徒の意欲を高めるため、紙の資料だけでなく、事実の検証のための実験道具もつけた。
- ・授業の際に、学習した内容を使って考えられる新たな課題を提示することで、更なる学習意欲を喚起することができた。

- ・時間配分の工夫を考えなければならない。
- ・ジグソー活動の際、個人の考えをまとめる時間の確保やどの程度までワークノートに書かせるか、どの程度考えをまとめた状態で話し合わせるかの見極めを工夫しなければならない。

③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

- ・これまでの学習より学習者主体の授業であり、新しい授業法で授業ができる。

・デメリットではないですが、今は「協調学習＝ジグソー法」となっている気がするので「ジグソー法だけ!」にならないように意識したい。協調学習が目的とするところを意識した新しい授業ができればいいなあと思っています。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

【理科】日本にはなぜ地震が多いのだろうか 授業案

学校名： 国富町立木脇中学校 授業者： 福園 祐基 先生

教材作製者： 福園 祐基 先生

授業日時	2010年11月22日（月）	教科名	理科
学年	中1	生徒数	27名
单元名	大地がゆれる	本時／全時数	1/5

この授業のねらい

日本が世界的に見て地震の多い原因を学ぶことを通して、「活着ている地球」を実感するとともに、地震に関する興味・関心を高め、単元の学習の見通しをもつ。

授業の中で答えを出してほしい課題

日本にはなぜ地震が多いのだろうか

各エキスパート活動の課題（分かってほしい内容）

- ・地球内部のつくりとプレートの移動（プレートの移動が地球表面の動きを引き起こす）
- ・世界のプレートの配置を地震の分布（プレートの境界で地震が多い）
- ・プレートの動きを地震が起きるしくみ（プレートのぶつかり合う所で地震が起こりやすい）

エキスパート活動 グループ編成

3人×3グループ×3種類

ジグソー活動 グループ編成

3人×9グループ

備考（クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など）

- ・1年生ということもあり、活発な雰囲気である。
- ・協調学習にまだ慣れていないため、戸惑う生徒への対応を考慮したい。

学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
14:15	1. 世界と日本の地震の分布について知る。 2. 本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・分布図をもとに比較させ、日本に集中していることに気づかせる。 ・全員に音読させる。
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">日本にはなぜ地震が多いのだろうか？</div>		
14:18	3. 課題について自分の考え（予想）をまとめる。 4. エキスパート資料A・B・Cを配布し、見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の考えを記入させる。 ・班ごとに異なる3つの資料を配布することを知らせ、本時の学習の流れを説明する。ジグソー活動では1人1人が唯一の知をもつ存在となることを認識させる。
14:45	EX-A: 地球内部のつくりとプレートの移動 B: 世界のプレートの配置と地震の分布 C: プレートの動きと地震が起こるしくみ	
14:21	【エキスパート活動】 5. エキスパート資料A・B・Cを各自で読み込む。 6. エキスパート班で資料について話し合いながら理解する。 7. ジグソー班での説明について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・エキスパート活動をもとに自分なりの理解を深め、ジグソー活動がスムーズに行えるよう準備させる。
14:36	【ジグソー活動Ⅰ】 8. ジグソー班に分かれ、それぞれの資料をもとに説明する(説明を聞く)。 【ジグソー活動Ⅱ】 9. 3つの説明をもとに課題に対するまとめを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの理解をもとにわかりやすく説明させる。 ・他の説明を聞き、自分なりの理解とあわせて課題に対するまとめを考える。
14:51	10. ジグソー班ごとにまとめたことを発表し共有する。 【クロストーク】 11. 次時からの学習について説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が司会となり、発表に対する多様な意見を引き出し交換する。 ・本時はオープンエンドとし次時からの学習への意欲付けを図る。
15:05	12. 自己評価を行う。	

【理科】日本にはなぜ地震が多いのだろうか 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 20101122 / 理科・大地がゆれる (地震)

授業者 福園 祐基 教材作成者 福園 祐基

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

- ・最初戸惑いを隠せない様子でしたが、徐々に話し合い活動も活発になり、盛り上がりました。
- ・普段の授業とは比べものにならないくらい頭をフル回転させていたようでした。50分間集中力が途切れなかったことも指導者としては驚きでした。
- ・それぞれの学力差を心配していましたが、お互いに助け合いながら学習を進めていました。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

- ・エキスパート資料の終末部分に資料のまとめを意図した「問い」を設定したのは効果的であったと思われる。各資料では、
 - A：マントルとプレートの移動を示す図がわかりにくかったので差し替えたい。
 - B：プレートの配置図の下に世界地図があることに生徒は気づかなかった。
OHP透明シートなどを使ってプレート図と震央分布図を重ねられるように工夫したい。
 - C：プレート内部地震のメカニズムを説明する図を挿入したい。
- ・ワークシートについては、極力「書く」部分を減らしてじっくり思考させる配慮をしたい。

③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

- ・ジグソー型学習のあと、単元を通して多くの生徒に意欲の高まりや知識の定着が見られた。
単元の導入として行うジグソー型学習には、一定の効果があると思われる。
- ・50分間集中して取り組むことができる（取り組まざるを得ない？）学習法だと思われる。
- ・繰り返し行うことでコミュニケーション能力も高まっていくことが予想される。
- ・生徒の反応によっては、それぞれの活動に時間がかかる可能性がある。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

- ・50分間にすべての活動をおさめようとするとはやはり無理があるように思われる。別クラスでは前時にエキスパート資料を配布して、家庭学習でひとり調べまで行かせたところ、本時クロストークまでの活動に時間的な余裕が生まれた。
- ・町教育研究センターでは、小中9ヶ年の理科学習において系統的に協調学習を行える単元の洗い出しを行っている。2分野が中心になるが、様々な単元の学習に活かしていきたい。

【理科】太陽の動きはなぜ場所によって違う？ 授業案

学校名： 竹田市立久住中学校 授業者： 堀 公彦 先生

教材作製者： 堀 公彦 先生

授業日時	2010年12月7日（火）	教科名	理科
学年	3年	生徒数	22人
单元名	四季の星座と季節の変化	本時／全時数	1/4

この授業のねらい

- ・ 日本に四季があることや季節によって見える星座がちがうことは、地球が太陽を中心に公転しているとともに、地軸が公転面にたてた垂線に対して 23.4° 傾いていることによっておきている現象であることを理解させる。

授業の中で答えを出してほしい課題

- ・ 地球上では、場所によって太陽の動きがちがう、それは地球の地軸が公転面に対して傾いていることによっておきている現象であることを、モデルを使って説明することができる。

各エキスパート活動の課題（分かってほしい内容）

- ・ 日本と南アフリカでの太陽の動きの違い
 - ・ 日本と赤道上で太陽の動きの違い
 - ・ 日本と北極での太陽の動きの違い
- これらをモデルを使って説明することができる。

エキスパート活動 グループ編成

- ・ 7人×2グループ、8人×1グループ
(7人グループは3人と4人に、8人グループは4人×2に分ける)

ジグソー活動 グループ編成

- ・ 3人×6グループ、4人×1グループ

備考（クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など）

- ・ とても素直で男女関係なく仲のよいクラスであり、授業に対してもまじめにとりくむことができる。
- ・ どういうグループ編成になっても、協力して話し合いや実験、観察等に取り組むことができる。

学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
14:40	1. 前時の学習内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地球は、太陽の周りを1年で1回公転しており、そのため季節によって見える星座が変化する。 ○ 季節の変化は、南中高度が変化するによっておきている。 ○ 日本以外では、太陽はどう動いて見えるのだろうか？
14:43	2. 本時の課題を知る。	
<p>場所によって太陽の動きに違いがあるのだろうか。また、それはなぜだろう？</p>		
14:45	3. エキスパート活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりが資料のエキスパートとして、説明することができるように確認する。 ○ わからないことは、些細なことでも確認し、メモを取らせる。 ○ それぞれのグループを回りながらアドバイスをする。 ○ 太陽と地球のモデルを使って考えさせ、できれば資料に図示させる。
15:00	4. ジグソー活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれのエキスパート資料を一人ひとりが説明し、意見を出し合って考えることを確認する。 ○ それぞれが考えた太陽と地球の関係をモデルや図で説明させ、共通点や相違点を見つけだして、統一的な答えを考えさせる。
15:12	5. クロストーク	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各班で考えた答えをモデルを使って発表させる。 ○ わかりやすいようにビデオカメラでスクリーンに映す。 ○ まとめをする。
15:27	6. まとめと自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ プリントに記入させる。

【理科】太陽の動きはなぜ場所によって違う？ 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 2010.12.07 / 理科・地軸の傾き
授業者 堀 公彦 教材作成者 堀 公彦

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

- ・ 1時間、課題を解決しようと粘り強く取り組むことができた。
- ・ 難しい課題だったが、わからないことをグループの仲間とともに考えることで、楽しい授業になったと感じていた。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

- ・ 指導案をはじめから2時間扱いとして考えておくべきだった。そうすれば、2段階の問いについても解消できたと思うし、時間を気にせずじっくりとできたように思う。
- ・ モデルをもっと工夫して、扱いやすいものにするべきだった。

③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

- ・ 資料づくりが大変だが、授業の前にメール等で意見を出し合って改善できることで、いろいろな人の意見を反映できる。自分ひとりでは気がつかないことがたくさんあるので、とても有効だと感じた。
- ・ 子どもが1時間集中して粘り強く考えられることが1番のメリットである。理科の苦手な生徒も得意な生徒も必ず得られるものがあるように感じる。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

- ・ 今後、これまで取り組んだ分野以外でも気がついたところから、教材化していきたいと思う。特に、概念を習得させたり、教室では実験や観察が難しいところで考えさせたりすることは、特に有効だと思うので、そういう分野から取り組んでいきたい。
- ・ 協調学習にモデルを使うことは、思考を助け、具体化するためにも有効だと感じるので、資料とあわせて、モデルも考えていきたいと思う。

【社会】今日本はなぜハイブリッドカーで勝負しているのか 授業案

学校名： 上組小学校 鞍岡小学校 授業者： 大久保朋広 長嶺仁美 小谷タキ子

教材作製者： 大久保 朋広

授業日時	2010年11月19日	教科名	社会科
学年	小学校5年生	児童数	20人
单元名	自動車をつくる工業	本時/ 全時数	9/10

この授業のねらい

今、開発が進んでいるエコカーのメリット、デメリットを学ぶことや、日本の自動車技術について学ぶ活動を通して、日本の自動車産業に対する取組を知り、今後の自動車開発について深く考えようとする。

授業の中で答えを出してほしい課題

なぜ今、日本の自動車産業はハイブリッドカーで勝負しているのか。

各エキスパート活動の課題（分かってほしい内容）

- ・ 3種類の車の仕組みと環境への影響
- ・ 3種類の自動車の普及の現状
- ・ 日本の自動車生産技術

エキスパート活動 グループ編成

3人×3グループ+4人×3グループ 3種類

ジグソー活動 グループ編成

3人×7グループ

備考（クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など）

特別支援学級在籍児童に対する支援

エキスパート活動において、分かりやすい文章で簡潔に提示する、伝えたい内容のキーワードを図式化して整理しやすくする、視覚的にとらえやすくする等、学習状況に応じて支援をしていく。

児童数が20名であるため、支援員の先生を含め、3の倍数とする。

学習活動のデザイン

時間	学 習 活 動	支 援 等
10:55	1 現在開発されているエコカーについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 低燃費のガソリン車 ・ ハイブリッドカー ・ 電気自動車 	○ エキスパート活動の補助的資料として扱う。
10:56	2 めあての確認（問い） なぜ今、日本の自動車産業はハイブリッドカーで勝負しているのだろう。	○ 前時の学習を想起させ、本時のめあて（問い）を意識させるようにする。
10:57	3 エキスパート活動 各班に配られた資料について、各自が読み込み、ジグソー活動の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の大事なところにラインを引く。 ・ 資料を理解し、説明できるように、班で協力をする。 	○ 資料を理解する時間を十分とるよう配慮する。 ○ 次のジグソー活動では、この資料を知っているのは自分1人であることを確認し、責任感をもたせる。 ○ 3種類の車の評価を、資料を元に判断するよう助言する。
11:15	5 ジグソー活動 ジグソー班に再編成し、エキスパート活動の資料をそれぞれが説明し、本時の課題に対する解答とその理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ジグソー1 3種類の車を3つの視点から3段階評価 ・ ジグソー2 なぜ今、ハイブリッドなのか？ 	○ 資料を用いながら説明してもよいことを伝える。 ○ 3つの資料を組み合わせて、本時の課題の解答を出すように助言する。 ○ 一人一人が、自分で納得した答えを出せるように支援する。 ○ 班で1枚、プリントにジグソー1の結果をまとめさせ、速やかにジグソー2に移るよう伝える。
11:30	6 クロストーク活動 各班で出た解答を発表し合い、意見をまとめる。	○ 各ジグソーグループでまとめたプリントを黒板に貼り、視覚的に伝えることができるようにする。 ○ ハイブリッドカーの利点だけでなく、まったく化石燃料を使わない自動車の開発の必要性にまで気付かせたい。

【社会】 今日本はなぜハイブリッドカーで勝負しているのか 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 H22, 11, 19 / 社会科

授業者 大久保 朋広 教材作成者 大久保 朋広

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

あまりにもたくさんのギャラリーがいたため、詳しいことは分かりませんが、緊張しながら一生懸命答えを出そうとする姿は見られたと思います。特に、エキスパート活動では、自信をもって説明していました。子どもたちの感想の中にも、「楽しかった」「またやりたい」といった意見がありました。事後の研究会でも話題になりましたが、めあてを確認した際、ある程度の予想をもたせると思考の変容が見られたかなと反省しています。あと、できれば2時間扱いについて、じっくり取り組んでも良かったなあと感じました。それぐらい、子どもたちの心には残る授業だったと思います。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

たくさんの先生方のお知恵を頂き、子どもたちの実態に即した資料ができたのではと思います。インターネットからほしい情報を探し出したり、直接電話をして聞いたり、かなり時間はかかりましたが、その辺りがうまく分担できるといいかなと思いました。また、専門的な立場でアドバイスを頂けるといいのですが、小学生にうまく伝わるように噛み砕くことも大切だなあと感じています。

③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

やはり、学ぶ意欲、そして何より授業に参加しているという自己存在感をもたせる意味では、協調学習、特にジグソー法は有効だと感じました。特に、どちらかという学力の低い子にとっては、自分がエキスパートになって周りの友達に教えるという活動は、楽しいし自信につながるようです。デメリットとしては、1単位時間にかける準備の時間の確保だと思います。また、どの教科のどの単元において、この協調学習が効果的であるか、個人的な見解だけでなく多様な立場から検討していく必要があると感じました。これは、ある程度の時間が必要だとは思いますが…。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

社会科では3学期に環境についての単元がある。そこで、授業ができないかと考えている。また、せっかくジグソー型のよさを子どもたちも感じているので、算数や国語もできないか、可能性を探っていきたい。

【社会】元寇から学ぼう－人権教育の視点から－ 授業案

学校名： 南小国町立南小国中学校 授業者： 原島 秀樹 先生

教材作製者： 原島 秀樹 先生

授業日時	2010年11月26日	教科名	社会科
学年	第1学年	生徒数	33人
単元名	モンゴルの襲来と日本	本時／ 全時数	元寇については2／3

この授業のねらい

元寇についての様々な資料を活用して、元寇を多面的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する態度を育てる。

授業の中で答えを出してほしい課題

日本の勝因を人間関係から考えよう

各エキスパート活動の課題（分かってほしい内容）

- ・元軍の構成
- ・元と東アジアの国々との争乱
- ・日本人たちのはたらき

エキスパート活動 グループ編成

3人×11グループ

ジグソー活動 グループ編成

3人×11グループ

備考（クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など）

明るい学級ではあるが、授業中の発言は一部の生徒に偏る傾向がある。

協調学習は、1学期に1度体験している。今回が2回目である。

1回目ではエキスパートで考えが持てなかった生徒が、ジグソーでは全員が考えを持って、文章量も増え、学習意欲の高まりがみられた。

学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
0	1 前時の復習をし、課題を知る。	○元寇の原因結果等の基本的な内容を振り返らせ、本時の課題を知らせる。
日本の勝因を人間関係から考えよう！		
10	2 エキスパート活動 一人一人が配付された資料を見て、考えを出す。 ・個人または班で協力して活動を進める。	○資料配付の前に、次の活動を予告し、責任を持って考えを出させるようにする。 ○資料読み取りの時間を十分確保する。 ○個人での読み取りが苦手な生徒は、班員の考えを受け入れることで、自分の考えにしてよいことにさせる。
20	3 ジグソー活動 (1) ジグソー班に再編成し、エキスパート資料をそれぞれが説明し、課題の解答を出す。 (2) 考えを出し合って、自分なりの考えをまとめさせる。	○各自が責任を持って説明するように言葉かける。 ○互いの資料を示して説明をすることはよいこととする。ただし、互いの考えを書いたシートを見せ合うことは控えさせる。 ○説明を聞いて分からないことは質問をさせるようにする。
40	4 クロストーク活動 課題の答えを学級全体で発表する。	○数班に発表させる。 ○聞き手は、自分の考えとの共通点、相違点を意識しながら聞かせるようにする。
45	5 まとめ 自己評価をする 次時の学習を知る。	○自己評価シートに授業の振り返りも感想を書かせる。 ○次時の学習内容を知らせる。
50		人々のつながり、協力などの視点から元寇を考えることができる。

【社会】元寇から学ぼう－人権教育の視点から－ 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 H22. 11. 26 5校時 / モンゴルの襲来と日本
授業者 原島 秀樹 教材作成者 原島 秀樹

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

今回は、人権教育の研究発表会ということもあり、生徒はいつもより緊張感を持って授業に参加していた。しかし、生徒は緊張していたものの、本時は自分を表現することを一つのねらいとしていたため、生徒の発表への意識もいつもより高かった。

強調学習の学習方法は今回が2回目であったが、生徒は好感触を持つことができた。社会科を苦手としている生徒も、エキスパート活動では「自分はプロにならなければ（感想より）」という責任感を持って活動することができた。ジグソー活動では、普段発言することが少ない生徒が「友達が真剣に自分の説明を聞いてくれたことがうれしかった（感想より）」というように学習の意欲を高めることができた。

多くの生徒が、また協調学習をしたいという感想を残した。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

資料は生徒の実態を考え何回も練り直しを行い準備したものの、資料から人権侵害を考えるとところまで生徒が思考することができるかどうか正直不安であった。しかし、生徒の思考力の素晴らしさに感心させられた。人とのつながりには、信頼し合うこと、協力すること、力に頼らないことなど、相手があつてのきずなというところまで数名の生徒が考えることができた。一方、資料に書かれていることを羅列していた生徒もいた。この点は、その生徒に対してのさらなる個別支援の必要性を感じた。

社会科は資料がいのちの教科なので、信頼性の高い資料、しかも教師主導の色合いをできるだけ薄めた資料を準備できるかどうかが大切であることを改めて考えさせられた授業であった。また、中学生とは言え、生徒の生活経験に近い地域教材を取り上げる大切さを改めて考えさせられた授業でもあった。

③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

メリット：今回のアンケート結果から、生徒は協調学習に前向きであることが分かった。生徒の学習意欲を高めるために、さらに自己肯定感を持たせるために、今後も授業に取り入れていきたい。

デメリット：時間配分をどのように設定するかである。生徒が活動に集中している時は、時間を切つての活動に入ることが難しい。ジグソー活動で切るのか、クロストークまで行うのか、計画を立てる必要があると思う。

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

公民分野の三権分立や経済の三主体の学習で行うことが可能のように思う。

【社会】元寇はなぜ起こったのか 授業案

学校名： 有田川町立石垣中学校

授業者： 面矢 和弥 先生

教材作製者： 面矢 和弥 先生

授業日時	2010年12月8日	教科名	社会科
学年	第一学年	生徒数	21人
単元名	元の襲来と鎌倉幕府のおとろえ	本時／全時数	1／3

この授業のねらい

元・高麗・鎌倉幕府のそれぞれ立場から元寇を多面的・多角的に考察し公正に判断すると共に適切に表現する能力と態度を育てる。

授業の中で答えを出してほしい課題

元寇はなぜ起こったのか。

各エキスパート活動の課題（分かってほしい内容）

- ・元の事情
- ・高麗の事情
- ・鎌倉幕府の事情

エキスパート活動 グループ編成

7人×3グループ

ジグソー活動 グループ編成

3人×7グループ

備考（クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など）

今回3回目のジグソーであるが、転校生1名が加わっている。前回ビデオで見てもらった彼らが、この資料にどれだけ意欲を燃やしてくれるか楽しみである。本来なら1時間ものであるが今回も2時間続きで社会科を設定している。

学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
0	<p>蒙古襲来絵詞をみて気づくことを発表する。</p> <p>本時の課題を確認する</p> <p>元寇はなぜ起こったのか</p>	<p>○元軍の顔に注目させ元軍だけではないことを知らせる。</p>
7	<p>エキスパート活動</p> <p>各班に配られた資料について、各自が読み込み、班で話し合いながら理解して説明する準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料にアンダーライン等を引く ・資料を理解し課題に関連づけて説明できるように班で協力する 	<p>○ 資料を理解する時間を十分とるよう配慮する。</p> <p>○ 班の再編成後（ジグソー班）は、その資料を知っているのは自分一人であることを理解させる。</p>
20	<p>ジグソー活動</p> <p>ジグソー班に再編成し、エキスパート活動の資料をそれぞれが説明し、本時の課題に対する解答と、なぜそうなるかの説明を考える</p>	<p>○ 3つの資料を組み合わせて、質問（本時の課題）の答えを出すように支援する。</p> <p>○ 一人一人が、自分で納得した答えが出せるように支援する。</p>
40	<p>クロストーク活動</p> <p>課題について説明しながら答えを発表する。</p> <p>自己評価</p>	<p>○聞き手は共通点や相違点を意識し質問があれば出させるようにする。</p>

【社会】元寇はなぜ起こったのか 授業後のコメント

授業日時/教科・単元 12月8日 3・4時限 / 社会科・元寇
授業者 面矢和弥 教材作成者 面矢和弥 CoREF

① 授業中の子どもたちの反応はどうでしたか？

- ・ 1限目の数学の授業で、めちゃくちゃ叱られた子どもがテンションが低かった。彼がいつもリードする子どもなので、残念である。
- ・ 内容（漢字）が難しかったので、ノリが悪かったのかな。

② 教材について、うまくいった点あるいは改善したい点はどこですか？

エキスパート活動がのびのびになり、要点をとらえられなかった。

ほとんどの文章にアンダーラインをひく子どもがあったので、字数制限30字以内でまとめよ。とかの方がよかったかもしれない。

ストーリーは単純だが、難しく考える子どもが多く、ねらいとちがった答えもあったので、一考を要する。

③ 今後ご自分の教室で「協調学習」を目指した授業を行うには、どのようなメリットとデメリットがありそうだと感じましたか？

メリット・・・充実した言語活動、言語力の育成、全員参加

デメリット・・・時間がよめない

④ そのほか気づいた点、次に「ジグソー型」でやってみたい単元などあればお書き下さい。

その他で、

本日の授業の最後の課題で、答えがないなか、どのようにまとめればいいのか課題がのこった。